

## 桂浜の石

砂浜から海に向かって釣り糸を投げた。中学校時代に学校が終わればすぐに家に帰って、自転車に乗り海に行って魚釣りを楽しんだ。コチ、キス、ベラ、カレイなどが釣れた。投げ釣りの面白さは手に持つ糸を通して、ピクピクと魚の当たりが伝わる感触にある。釣れた魚を持ち帰って母に料理してもらったことを思い出す。

高知市の太平洋を目の前に美しい弓形に延びる砂浜に立って、子供の頃の思い出がまざまざと蘇ってくる。やはり男の子なのだ。ここは月の名所でも有名な桂浜。毎年中秋の名月の夜には地元出身の歌人・大町桂月を偲び、文芸を語り酒を酌み交わす「名月酒供養」が開催されている。

近くの土産物屋さんには様々な色をした石ころが袋に詰めて売られていた。ここの砂浜から採取したとのこと。たしかに波打ち際には石や貝殻が見られた。この美しい石（赤、灰、緑、白、黒色）は、四国山脈の間を流れる仁淀川の流れによって上流から海に運ばれた後、波によってこの浜辺に打ち上げられたものである。これらの石は恐竜が生きていた時代の海底を構成する岩石からなっている。そして火山活動や地震といった自然活動が高知の山並みをつくり、その山の岩石が川によって運ばれ海に達するまでには、数千万年という時間が流れている。これらを知ることにより桂浜から壮大な歴史ロマンを感じ取れた。

この浜辺の目の前にして小さな水族館があった。桂浜水族館は1931（昭和6）年に開館。途中太平洋戦争中では一時閉館したものの古くからの歴史を誇っている。館内には黒潮で獲れる魚を展示するなど、210種約6500点の海や川の生き物を見ることが出来る。



撮影 2014 年春

